

# 水に慣れる。

## ～「命」を守るために～

夏休みに入ると、プールや海や川などで涼をとるご家庭もあるのではないのでしょうか。本校では、感染症の拡大防止の観点から、昨年度・今年度と2年間続けて水泳の授業ができませんでした。学年通信や学年集会でも話題にしたのですが、2年生の子どもたちの泳力や水に対する慣れがどの程度のものなのか、担任一同気になっています。

例年、水泳の学習を始めるにあたって子どもたちにあらかじめ話をするがあります。それは、水泳の学習は命を守る学習であるということです。

水中と陸上では体の動かしやすさが異なります。陸上でできることが水中できなくなり、陸上でできないような動きが水中ではできるようになります。まずは、水の中で様々な動きをすることでこのような点に気付き、水中での体の使い方に慣れることが子どもたちの不安感を和らげると思います。



学年集会でお配りした資料には、水中での体の動かし方が様々載っています。夏休みの期間で、お家の人も一緒に挑戦してみたいはいかがでしょうか。

参考：『わたしたちの体いく2』文教社

## こんな姿はありませんか？

★顔をぬらすことを嫌がります。

ぬれタオルで顔を拭くことから始めてみましょう！

★シャンプーハットが取れません。

シャワーではなく、じょうろを使って少量の水から挑戦してみましょう！

★水に潜れません。

『肩』→『あご』→『口』→『鼻(つまんでもいい)』→『目』→『頭のてっぺん』の順で少しずつ潜りましょう。  
※耳に水が入るのを嫌がる人が多いです。仰向けになって、耳をつける練習もおススメ。

★体に力が入って浮くことができません。

体を下から支えてあげて水面近くを引っ張ってあげましょう。「たこさん」や「くらげさん」の様なイメージを伝えてあげると力が抜けやすいですよ。

